

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第7部門第3区分
【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公表番号】特表2000-511031(P2000-511031A)

【公表日】平成12年8月22日(2000.8.22)

【出願番号】特願平10-529285

【国際特許分類第7版】

H 0 3 L 7/22

H 0 3 L 7/197

H 0 4 B 1/26

【F I】

H 0 3 L 7/22

H 0 4 B 1/26 S

H 0 3 L 7/18 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年2月24日(2005.2.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年 2月24日

特許庁長官 小川 洋 殿

1 事件の表示

平成10年 特許願 第529285号

2 補正をする者

名 称 コーニンクレッカ フィリップス エレクトロニクス
エヌ ヴィ

3 代 理 人

住 所 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号
霞山ビルディング7階 電話(3581)2241 番(代表)

氏 名 (7205) 弁理士 杉 村 興 作



4 補正対象書類名 特許請求の範囲

5 補正対象項目名 特許請求の範囲

6 補正の内容 別紙の通り



1. 特許請求の範囲を以下の通りに補正する。

「 特 許 請 求 の 範 囲

1. 受信機であって、この受信機をチューニングするチューニング装置を具え、このチューニング装置が、

ステップ状に変化させることができる周波数を有するステップ状周波数信号を発生させる周波数合成回路と、

前記ステップ状周波数信号によってチューニングオシレータと同期をとる同期回路とを具える、受信機において、前記同期回路を、前記ステップ状周波数信号とチューニングオシレータとの間に整数の周波数関係を与えるように配置したことを特徴とする受信機。

2. 前記ステップ状周波数信号とチューニングオシレータとの間に整数の周波数関係を調整可能にしたことを特徴とする請求の範囲1記載の受信機。

3. 前記ステップ状周波数信号の周波数を変化させることができるステップのサイズを、調整可能にしたことを特徴とする請求の範囲2記載の受信機。

4. 前記同期回路が、前記受信機によって処理することができる送信信号のタイプに関連する典型的なベースバンドの少なくとも大部分をカバーする帯域幅を有することを特徴とする請求の範囲1記載の受信機。

5. 前記同期回路が、前記ステップ状周波数信号とチューニングオシレータとの間の同期エラーの関数として前記チューニングオシレータに周波数制御信号を送信する位相/周波数検出器を有することを特徴とする請求の範囲1記載の受信機。

6. 前記周波数制御信号と同期エラーとの間の関係を調整可能にしたことを特徴とする請求の範囲5記載の受信機。

7. ステップ状に変化させることができる周波数を有するステップ状周波数信号を発生させる周波数合成回路と、

前記ステップ状周波数信号によってチューニングオシレータと同期をとる同期回路とを具えるチューニング装置において、前記同期回路を、前記ステップ状周波数信号とチューニングオシレータとの間に整数の周波数関係を与えるように配置したことを特徴とするチューニング装置。

8. ステップ状に変化させることができる周波数を有するステップ状周波数信号

を発生させるステップと、

前記ステップ状周波数信号によってチューニングオシレータと同期をとるステップとを具えるチューニング方法において、前記同期回路を、前記ステップ状周波数信号とチューニングオシレータとの間に整数の周波数関係を与えるステップを具えることを特徴とするチューニング方法。」